「佐渡で新しい生活を」

～地域の魅力をサポートします～
われら地域おこし協力隊

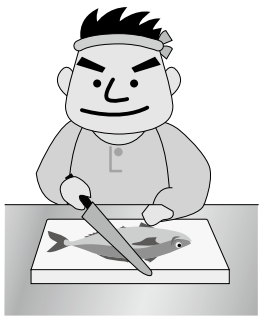
着任のごあいさつ

高千地区担当　逢坂（おおさか）　弥（わたる）

佐渡の皆さん、よろしくお願いします

初めまして、５月から高千地区の地域おこし協力隊として活動している逢坂と申します。自己紹介時には珍しい名前だと言われることが多いのですが、ぜひこの機会に覚えていただければと思います。出身は新潟市ですが、前職はＩＴ系のメンテナンスなどの仕事をしており、転勤のある会社でしたのであちこち引っ越しをしていました。

今回縁があって佐渡の地域おこし協力隊として着任させていただきました。佐渡の食べ物は本当においしいので、これを多くの人に知ってもらい、届けることを目標として活動をしていきます。



佐渡へ来てからいろいろなものを食べていますが、実は今まで魚をさばいたことがなかったので、今は家で修行中です。新鮮な魚介類がすぐ目の前で手に入り、こんなに自然が多い佐渡の環境はとても貴重です。佐渡の強みとしてアピールしていきたいと思います。

問地域振興課地域振興係　☎６３―４１５２

市立病院から こんにちは

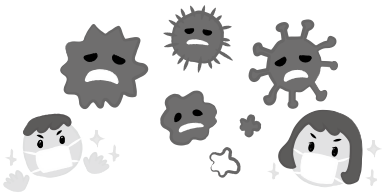
相川病院　顧問　寺島　雅範先生

「新型コロナウイルス感染症を考える」

私は、平成12年から7年間の相川病院勤務後も、月2回の外来診療を続けています。腰痛や関節痛の患者さん。この欄は、市立病院の医療従事者が現場から、最新の医学情報を伝えておりますが、私の場合、自分の臨床経験をもとにその責務を担うだけの実績がありません。

吉井章院長先生から本稿の依頼を受けた時、その意味でお断りしたかったですが、せっかくの機会でありますので、最近の「新型コロナウイルス感染症」に対して私が考えていることの一端を述べてその任を果たしたいと思います。

この感染症は複雑で分かりにくいです。感染の恐怖が恐怖を呼び社会を分断しているようにも見えます。「社会問題」ですから、政府や自治体の対策が極めて重要であります。民族や国家の実力が問われることになります。



一方、病気自体はどうでしょう。肺炎だけでなく、血管内凝血を生じて脳梗塞や心筋梗塞を起こす危険性が指摘されておりますが、本当なのでしょうか。有名人の発病が話題になりましたが、その生死を分けたポイントはどこにあったのでしょう。重症者の発病の様子や症状、治療成績などが気になりますが、その情報はいまだ開示されるには至っておりません。

治療薬とワクチンの開発が進められておりますが、結局、ワクチンの完成までは我慢の日が続くことでしょう。いつの世にも、人類にとって最大の難敵は「感染症」であります。病原性微生物との戦いは、これからも続きそうです。医学と医療はそれに応える社会的責任を負っています。

次回は両津病院の石塚院長です。